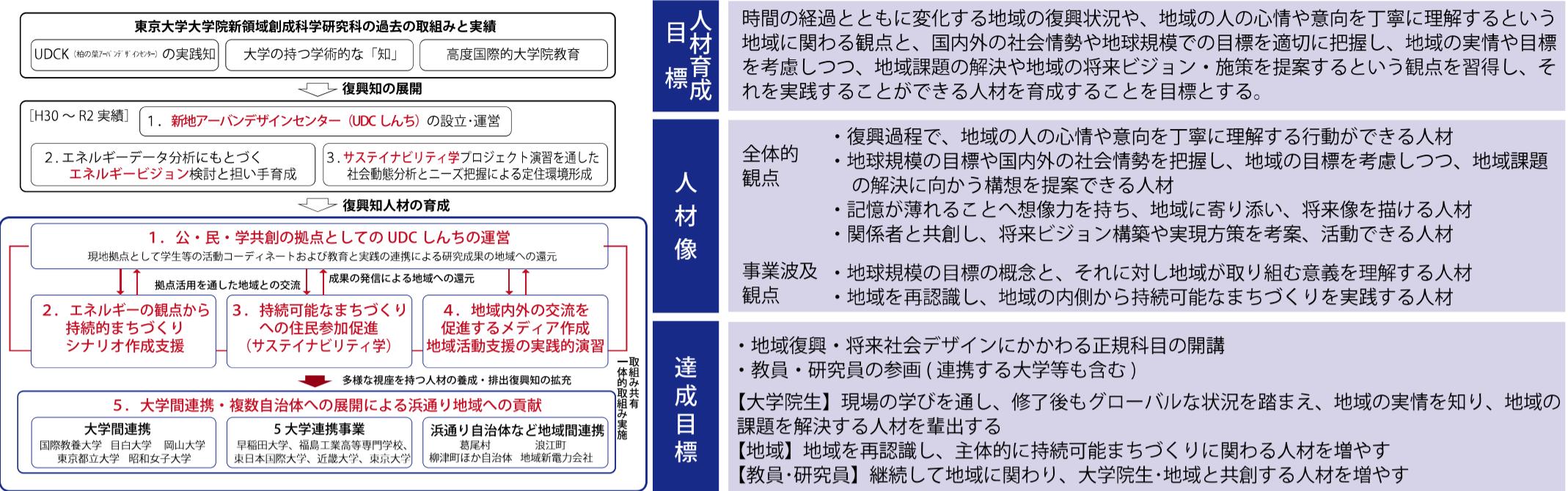


公・民・学共創による持続可能まちづくりを通じた復興知人材育成

東京大学大学院新領域創成科学研究所

事業概要

新地町において、地域エネルギーシナリオ作成、住民参加促進、地域状況を伝えるメディア作成や地域活動支援、それらを統合した持続可能まちづくりを、現地拠点 UDC しんちを活用して公・民・学共創により実践する。これにより、復興の状況や内外の社会情勢の変化に順応し、創造的にまちづくりに貢献する復興知人材を育成する。



事業 I エネルギーの観点から持続可能まちづくりのシナリオ作成支援

日本の 2050 年カーボンニュートラルや福島県の 2040 年再生可能エネルギー 100% を題材に、エネルギーの観点からまちづくりをどう変化させるべきかを議論し、シナリオ作成に必要な知見を生み出す。

再生可能エネルギーや省エネルギーの導入可能な量の推測

- 「環境システム学輪講」の実施
- 太陽光・風向風速：町内 4 地点で日射量等を計測
- 家庭エネ：スマートメーターのデータ解析 → 風力＆業務、水力＆運輸、バイオマス＆産業

エネルギー技術の望ましい導入の仕組みや導入方法の探索

- 「環境システム学実地演習」の実施
- 国内地域新電力やシュタットベルクのヒアリング・文献調査



町内に設置した気象計測器

食 × 観光の教育活動 WG

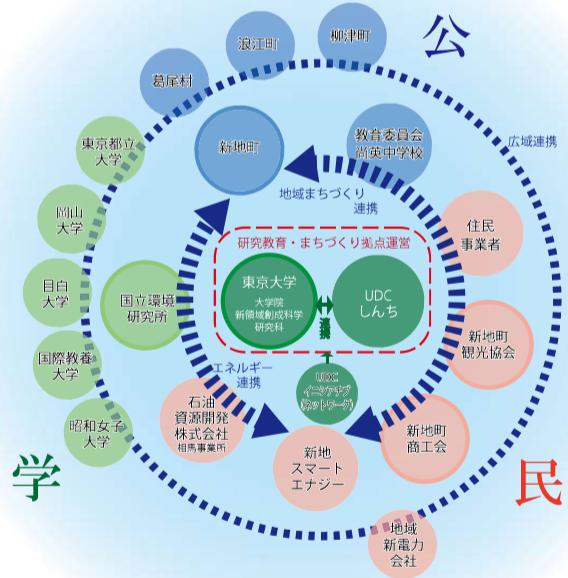
「関係人口創出プログラムの提案」のための交流体験を実施。①郷土料理教室・農家ステイ体験の提案、②大学生向け観光モデルコースの提案、に取り組む過程での心理的行動変化の記録・評価を行う。



新地町立尚英中学校 WG

大学の研究を活用した地域教育を実践。「新地町の環境・エネルギーまちづくり」をテーマに、中学校の環境学習と連携して実施。

公・民・学共創の拠点 UDC しんちをプラットフォームとした連携体制



4つのグループ・テーマの研究・教育事業 各グループが連携・関係者と共にWG 「広報しんち」で毎月活動内容を報告

事業 IV 新地高校プロジェクト： 地域での「学び」から持続可能な地域を考える

日・福島県立新地高校は、R4 年度より相馬総合高校に統合され、在校生は R5 年度までは現校舎で学び続ける。新地校舎に通う生徒を対象に、様々な仕事をや企画を生み出している大人たちを先生として招き、地域で暮らすことにについて伝える。



新地町の魅力発信 WG

新地町や観光協会等と連携してマップ作成や魅力情報発信のツール等について検討し、大学の活動成果を編集して、UDC しんち等で情報発信を行う。



映画『新地町の漁師たち』

東日本大震災と原発事故で被災した、新地町の漁師のその後を追ったドキュメンタリー（監督：山田徹、2016 年）。震災以降のこれまでの歩みを理解するため学内で上映会を実施。



今年度までの課題

新型コロナウィルス感染症の拡大に伴うオンライン化の影響で、前身の事業期間を通して培った活動対象地域における直接的な「つながり」が希薄となった。この地域コミュニティとの関係性再構築に注力しつつ、オンライン活動の実践によって得た知見を活かし、ポストコロナを見据えた新たな形のまちづくりを検討する。

3年目事業内容 取組方向性

各プロジェクトは、過去 2 年度の振り返りをとおして、活動内容の修正をおこないつつ、これまでの実績と経験を存分に活かして、事業内容をいっそう深化させ、地域の多様な主体との連携を強化する。また、地元自治体の協力のもと、地域広報誌や、SNS 等を利用した活動の可視化を積極的に展開し、対象地域の事業へのさらなる理解と、地元住民のプロジェクトへの自発的な参加を促進するとともに、関係人口の拡大を図る。